

明治時代最大の水害

明治18年の水害は、大阪では明治時代最大のものだった。このときの河川の決壊による浸水、あるいは橋の流失の状況をこの瓦版は伝えている。

瓦版には雨がいつから降り始めたかは書いてない。手許にある他の資料をみても、6月中旬としか書いてない。しかし、明治18年6月には大阪だけでなく、福岡県、広島県でも豪雨があり水害になっている。日本気象資料には下関、久留米の降雨記録が載っているが、これは6月15日から20日になっているので、大阪地方でも15日ごろから豪雨に見舞われたのだろう。

大阪の水害は17日に伊加賀村で淀川の堤防が決壊したのが最初だった。この結果、郡部は水びたしになった。しかし淀川は増水しつづけたため、野田村で堤防をワザと切って散水した。この「ワザト切り」については、大阪市風水害誌では北河内郡役所からのニュースとして、次のように記している。「……水益々暴漲して将に寝屋川堤を衝破せんとする勢なりしかば、昔享和の難に野田村

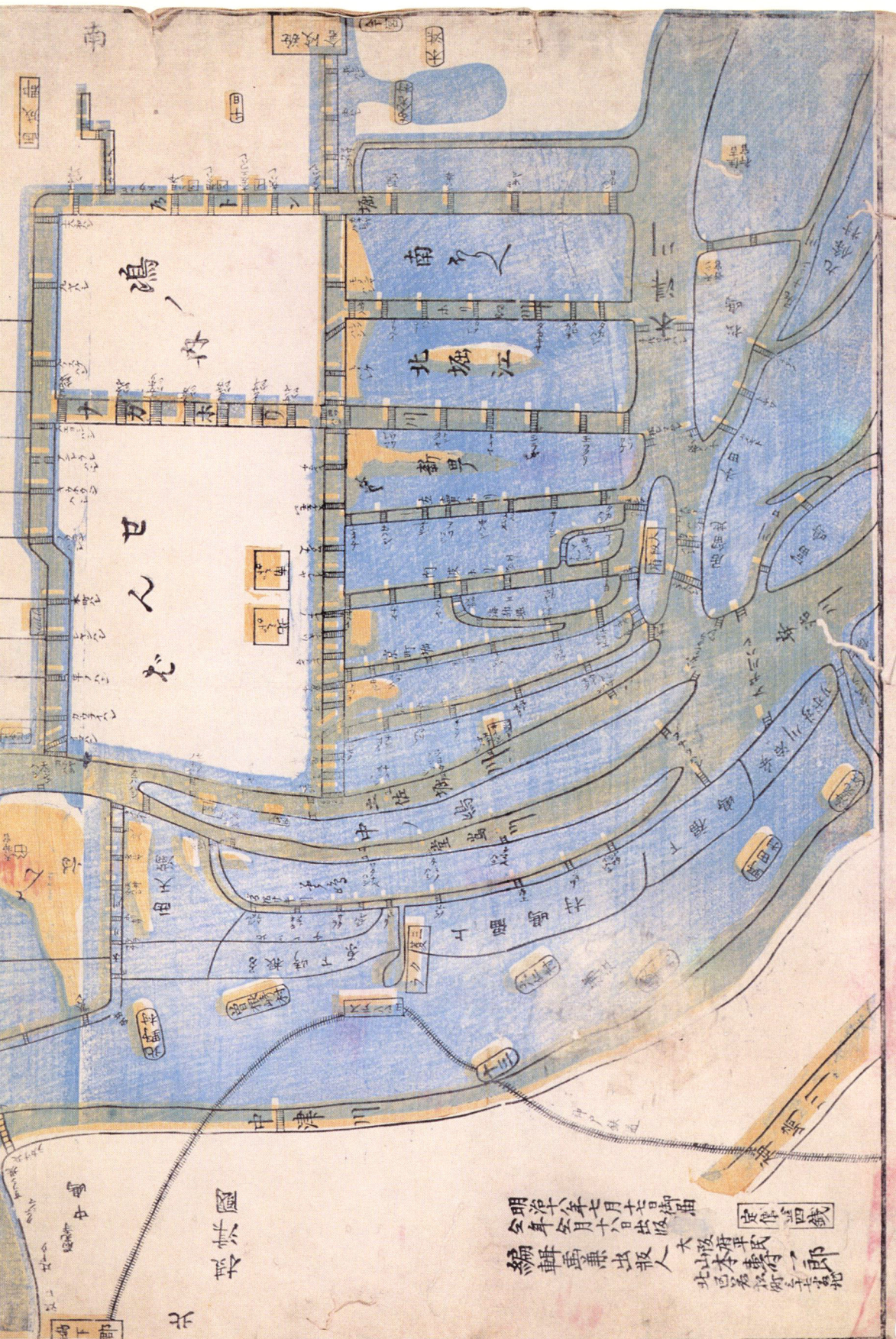
堤防を断って以って猛暴なる湛水を放注せし故輒に慣ひ、直に北区野田村字大長寺堤防を截断し、二十日午後疏通の功成りしかば、湛水は湍瀬をなして忽に流下せり」

その後も「同22日暴風雷雨の為」「同月30日ニ至り霖雨洪水のため」というように雨は降り、河川は増水し、はんらんした。

前記の大阪市風水害誌によると、災害のピークは7月2日で、市街各川の水は路面に溢れて、全市は文字通り水没した。殊に中ノ島2・3丁目および宗是町辺りは水が家の軒にまで達したという。この日墜落した橋は梅檀木橋、淀屋橋、肥後橋など10余に及んだ。橋の流失は7月3日になっても続出し、前日に続いて30余の橋が落ちてしまった。

もちろん被災者はおびただしい数で、北区3,000人、東区1,800人、南区700人、東成郡1万余人という人が収容所に避難したため、衣服や食糧の配給にも不足を生ずる有様だったという。

(瓦版は東京大学地震研究所提供)



鳥居
世
心
人

南
北
堀
江
新
町

中津川

明治六年七月七日御届
今年八月十日出版

定價四錢

編輯禹肅出版人 大坂府平民
北島春樹 本專府 一 郎
北島春樹 本專府 一 郎

長
興
圖

下
郡